



鶴田町農事普及だより

(6月号 令和8年6月1日～6月30日)

〈発行〉
鶴田町／鶴田町農業振興課
鶴田町農業支援センター
つがるにしきた農業協同組合
鶴翔統括支店
西北農林水産事務所
農業普及振興室

《山火事防止運動強調期間実施中》

(4月1日～6月10日)

春は空気が乾燥し、火災が発生しやすい時期です。剪定した枝等をやむを得ず園地で焼却する場合、山火事など火災の発生防止を徹底してください。

《ツキノワグマ出没警報発令中!!》

(4月20日～11月30日)

農作業は、1人での作業を避け、「ラジオやクマよけスプレーを携帯する」、「食べ物や空の容器はすぐに片付ける」、「農作業残渣は適正に処理する」など、人身被害の防止に努めましょう。

《農作業中の熱中症に注意しましょう》～熱中症は適切な予防をすれば防ぐことができます～

- 暑さの感じ方は人によって異なります！高齢の方は特に注意が必要です。
- まわりが協力して、熱中症予防を呼びかけ合うことが大切です。
- 天候の変化が激しい時期ですが、高温が予想される日は、熱中症予防を忘れないようにご注意ください。

《登録品種に関する注意喚起》

- 登録品種の種苗・収穫物等を利用するには、原則として権利者の許可が必要です。
 - 育成権者の許可を得ずに、自家採取した登録品種の種苗を近所の農家等に配布することは種苗法に違反します。
 - 他都道府県で開発された品種によっては、作付けできる都道府県が限定されている場合があります。
- 登録品種かどうかの確認は品種登録ホームページ (<http://www.hinshu2.maff.go.jp>) で行い、正規のルートで種苗を入手しましょう。
- 育成権者を侵害すると民事請求を受けたり、刑事罰を科される場合があります。



《6～8月は「農業危害防止運動」実施期間です》

- 使用し残った農薬などは、河川等へ絶対捨てないでください。
- 農薬を使用する場合には、必ず最新の「農業登録情報」を確認してください。
- 農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。

農業の適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう。

2. 雑草防除
- (1) 初期除草剤と中・後期除草剤の体系処理の場合、後期除草剤処理後の雑草の発生を見ながら、除草剤の散布後は、除草効果の維持と水質汚染防止のため、散布後7日間は止水し、落水や掛け流しをしない。

生育期	暖かい日	寒い日
分けつ期	3cm程度の浅水	5～6cm程度の深水
有効茎数確保後	中干し	

■水管理の目安

日平均水温が19℃以下になると分けつが発生が急激に少なくなるため、昼間止水・夜間かんがい(基本)とし、暖かい日は浅水で水温を上昇させ、寒い日は深水で保温する。また、漏水防止に努め、掛け流しをしない。

水田にガスが発生し生育が不良の場合は、6月中旬頃に3～5日程度(田面に小さなヒビが入る程度)の落水管理を行う。

有効茎数(1株茎数で「青天の霹靂」は18本程度、その他の品種は20本程度)を確保し、6月末頃から平均気温が20℃以上で晴天が続くようであれば中干しを行う。中干しは田面に軽く亀裂が入る程度とする。

基本	水管理
暖かい日 寒い日	昼間止水・夜間かんがい 浅水・深水を調整する 深水・保温する

日最高	日最低	日較差
15:30	17:32	15:17

1. 水管理

きめ細かな水管理で生育促進に努めよう!

気象 (令和8年5月21日 仙台管区気象台発表 東北地方1か月予報より)

期間の平均気温は高い確率が50%で、天気は数日の周期で変わる見込みである。降水量は、多い確率が40%である。日照時間は少ない確率が40%と予測されている。

町農業委員会では、年3回農地パトロールを実施し、遊休農地や、放任園等の発生防止に取り組んでいます。農地の貸借や売買については、町農業委員会へご相談ください。



1. 裂果防止対策
- 雨よけハウスの被覆は着色した果実が見え始めた頃に行い、裂果防止に努める。
2. 着色管理
- 葉摘みは果実の着色がある程度進んだ頃(おおむね収穫予定の7～10日前頃)から行い、果実に直接かぶさっている葉を軽く摘み取る。過度の葉摘みは果実品質を低下させたり、翌年の花芽の充実不足、樹勢の低下を招くおそれがあるため、摘み取る量は最小限にとどめる。

3. 病害虫防除

■ 薬剤散布【農薬はおとう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。】

散布時期 (10a当たり散布量)	基準薬剤名と倍数			
	殺菌剤	殺虫剤		
満開35日後 6月上旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル 又はファンタジスタ顆粒水和剤 又はナリアWDG 又はアンビルフロアブル 又はオンリーワンフロアブル	1,000倍 3,000倍 2,000倍 1,000倍 2,000倍	テルスターフロアブル 又はスピノシン剤	4,000倍 10,000倍
収穫前【佐藤錦】 6月中～下旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル 又はナリアWDG 又はインターフロアブル 又はオンリーワンフロアブル	1,000倍 2,000倍 5,000倍 2,000倍	エクシレルSE 又はテッパン液剤	2,500倍 2,000倍
収穫前【晩生種】 7月上旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル 又はナリアWDG	1,000倍 2,000倍	テルスターフロアブル 又はスピノシン剤	4,000倍 10,000倍

※スピノシン剤：ティアナWDG、テリゲートWDG

注) 1 満開35日後頃に、紅さやかなどの早生種に散布する場合、収穫前日数に注意して薬剤を選択する。
2 カメムシ類対策では、満開35日後及び晩生種の収穫前に発生がみられた場合は、テルスターフロアブルを選択する。
3 アンビルフロアブル、オンリーワンフロアブル、インターフロアブルは、薬剤耐性の懸念があるので連続使用しない。
4 アミスター10フロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤、ナリアWDGは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、アミスター10フロアブルとファンタジスタ顆粒水和剤は連続使用しない。

おとう園

適期管理と適期収穫で品質向上に努めよう!

佐藤錦(鶴田町富満川)の満開日は5月1日で平年より3日早かった。

品種	満開日から収穫日までの日数
紅さやか	40～50日
佐藤錦	50～55日
ジュノハート	55～60日
紅秀峰	60～65日
サミツ陽	60～65日
南陽	60～65日

4. 収穫

収穫は満開日から日数が目安になるが、天候によっては早まることもあるので、品種の特性(着色、大きさ、形状、食味など)を重視し、成熟したものを順次、回数にわたって行う。

■ 各品種の収穫期の目安

《かん水と追肥量の目安》

()は2本仕立て苗

月	旬	かん水量 / 1株当	かん水間隔	10日間の窒素成分合計
6	上	1.5% (3.0%)	1～2日おき	1.5～2.0 kg / 10a
	中～下	1.5～2.0% (3.0～4.0%)	毎日～1日おき	2.0～2.5 kg / 10a

※りんか409はかん水量は1割程度多くする。

1. 温度管理
- (1) 昼間の好天時は高温障害が発生しないよう、サイド換気や肩換気などで生長点から上の部分を換気する。
- (2) 気温が低い日や夜間はサイドを閉め、保温に努めるが、最低気温が14℃以上になれば、夜間もサイドを開放する。
2. 着果促進
- 1～4段花房は4番花開花始め、5段花房以降は3～4番花開花始めにトマトトーン処理をする。処理はなるべく気温が高温にならない午前中の時間帯に行う。
3. かん水・追肥
- (1) 本格的なかん水・追肥は、1本仕立て苗は3段花房の開花始めから、2本仕立て苗は2段花房の開花始めから行う。
- (2) かん水量は1株当たり1.5リットルを基準とし、28℃以上の気温が予想される日は1株当たり2リットルとする。30℃以上の高温が予想される日は、昼から午後2時頃までに1株当たり1リットルを追加かん水する。
- (3) 2本仕立て苗の場合、1株当たりのかん水量は1本仕立て苗の2倍量とする。
- (4) かん水の間隔は天候状態をみながら、毎日2日おきで調整する。
- (5) 1回当たりの追肥量は、窒素成分の合計は1.5kg / 10a以内とする。日間の窒素成分の合計は1.5kg / 10aを目安とするが、天候2.510や草勢に応じて調整する。

「農事普及だより」及び「他の農作物生産情報等」は町ホームページにも掲載しております。

ここから見てね!!

(農事普及だより) (他の農作物生産情報等画)

URL <http://www.town.tsuruta.lg.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>

【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。

鶴田町農業支援センター 午前9時から午後5時
☎ 22-2111 (役場農業振興課)

5. 葉面散布
- 草勢の維持(葉先枯れ、ガク枯れ、着果不良軽減)のため、3段開花以降、メリット黄400倍を各段2～3日おきに2回、開花房を中心に葉面散布する。
6. 病害虫防除
- (1) 灰色かび病が発生しやすくなるので、葉先枯れ部分や花カスでできるだけ取り除き、ハウスの内の換気や薬剤による予防散布を行う。
- (2) アザミウマ類の発生が多くなるので、ほ場周辺の除草を行い、発生状況に応じて早期に防除を行う。
- (3) トマトキバガの発生に注意し、葉や果実に食害が認められた場合、速やかに防除を行う。
- (4) りんか409は青枯病に耐病性がないため、わき芽かき、摘葉、誘引作業等の傷口から感染しないように注意し、ハサミ等の使用の際はこまめに消毒しながら作業を行う。
7. 摘果
- (1) 摘果時期と着果数は1段花房の着果節位で変える。着果節位が5～6節の上の場合は2段開花始めに2果、7～8節の上の場合は3段開花直前に3果となるよう摘果する。
- (2) りんか409は着果性がよいため、成らせすぎに注意する。

